

10年間の
 人口推移



活動への
 取り組み方



浅井地区地域福祉活動計画は、浅井地区の住民みんながより暮らしやすい地域にするために、みんなで行動するための指針です。

私たち住民一人ひとりの力と、地域の福祉団体、施設、専門職などと連携し、無理せず楽しみながら、子どもから高齢者までが安心していきいきと暮らせるよう、計画し、楽しみながら実行し、定期的に振り返りながら改善を行い、さらなる活動の発展を行っていきます。

評価結果を踏まえ、必要に応じて改善する。

活動の進捗状況や達成状況について評価する。



課題を発見・共有し、解決の方向性を見出す。

計画をもとに、具体的な活動を進める。

無理なく、自発的かつ主体的に取り組む。

第3期
 浅井地区地域福祉活動計画

2024年度 ▶▶▶ 2028年度

あんしんし
 いきいきくらす
 まちづくり



1 顔の見える関係づくり

近所同士や地域活動、団体活動に参加して、人と人の出会う機会を増やしながらか、あいさつや対話（コミュニケーション）をすることで、顔の見える関係づくりを目指します。

具体策

- あいさつや地域対話の推進と実践
- 集まる仕組みや仕掛けづくり



2 助け合う居場所づくり

自治会内では老人会や自治会ごとのサロンなど。

また、自治会を超えた集まりの場所として、子育てサロンのような同じ思いを持った者の集まりの場や折り紙や絵手紙などの趣味を通して集まる場を作る。

これらの居場所において対話（コミュニケーション）を深め、気づきあうことで安心して暮らせる地域を目指します。

具体策

- 自治会内での居場所の充実
- 自治会を超えた居場所の充実



第2期福祉活動計画振り返りと第3期福祉活動計画に向けて

浅井地区では、「浅井に住んでよかった」と思える福祉のまちづくりを目指し、第2期福祉活動計画も1期と同じく「安心な暮らしの仕組みづくり」「いきいきと活動できる人づくり」「あたたかいところのかようまちづくり」を3つの柱として、2019年に策定し推進してきました。

しかし2020年1月以降、新型コロナウイルス感染症が流行したことにより、地域のまつりやイベント、研修や事業の縮小、人づき合いなどの簡素化が進み、近隣関係の希薄化に拍車がかかってしまいました。

そのような状況が長期間にわたったことにより、地域のつながり、居場所の必要性、健康への関心、困ったときの体制づくり、活動者への応援などいくつか重要なポイントが見え、3期においては、5つの基本目標を柱にして「あんしんし、いきいきくらす、まちづくり」を目指します。

5 地域活動の拡充と活動者を応援する体制づくり

サロンや各種団体を維持していくためには、サロンなどを運営するスタッフを応援していく体制も今後は必要です。

また、子どもから高齢者までの幅広い世代が地域活動に取り組むことで、地域を愛せる心が育成され持続性が生まれます。

- 人づくり、後継者づくりの支援
- 活動者を支援する場づくり

具体策



あんしんし いきいきくらす まちづくり

基本目標

4 もしもの時困った時の体制づくり

誰でも気軽に、なんでも相談できる、生活相談窓口を設置し、気楽に相談できる場所を増やすことや、災害時に備え、自治会ごとに支援が必要とする人々を把握し、また災害時及び、日常の病気やけがに備えて「命のバトン」を活用した見守り体制づくりを推進していきます。

具体策

- 常時からの見守り体制づくり
- 災害を想定した支え合える体制づくり

具体策

3 0歳～110歳まで安心して暮らせるまちづくり

子どもから高齢者が心身ともに健康に暮らすことができるよう、また、さまざまな課題を抱えていても、この地域で住み続けることができるよう各種団体と連携した地域づくりを目指します。

- 地域で支える体制づくり
- 生活支援活動（お助け隊など）
- 地域住民のいきいき健康づくり